

九州北部豪雨災害 医療(緊急対応)の動き (EMIS 記録、関連学会からの情報)

7月5日(水)

22:30 EMIS: 島根、福岡、大分で警戒モード運用。島根の2病院、大分の4病院でDMATが待機。

7月6日(木)

朝 EMIS 上、警戒モード変更なし(島根6チーム、大分4チーム待機)。

11:20 福岡県:福岡県庁内に県DMAT調整本部立ち上げ。

昼 大分県日田市秋吉病院で床上浸水。同日休診。

夕方 九州の感染症コントロールチームは既に大分県に入り活動中。

16:51 福岡県朝倉市役所内にDMAT調整本部立ち上げ。

17:13 朝倉市:僻地での孤立者200名を越える、との情報あり。

7月7日(金)

10:08 福岡県:EMISを警戒→災害モードへ変更。

11:00 福岡県:県庁内DMAT調整本部(3隊)本部活動中。朝倉市災対本部(3隊)本部活動中。朝倉医師会病院(300床、災害拠点病院)に受入DMAT3隊(医療活動中)。

7月8日(土)

午後 大分県:避難所の一部で熱中症発生(点滴施行)。空調のある避難所へ移動促進。保健師にて避難所の巡回実施中、医療ニーズの把握、感染症・血栓症予防対策行われている。医療機関は問題ないため必要時受診を促す。

21:48 福岡県:EMISを災害→警戒モードへ。

7月9日(日)

朝 大分県:西部保健所でDPAT(災害派遣精神医療チーム)活動開始。

9:00 福岡県:県庁内DMAT調整本部撤収。

7月10日(月)

朝 福岡県:福岡DPAT活動開始(予定)。

〈分析〉

1. 医療機関の被災がほとんどなかったため、被災地の医療供給体制が崩壊せず既存の施設で概ねの傷病者受け入れが可能だった。病院避難が発生しなかったこと、一所における多数傷病者発生事案がなかったことから、県域を越えた DMAT 展開に至らなかった。発災後しばらくは search & rescue が中心だった。
2. 夏場の避難であり、熱中症、感染症など避難者の健康管理が今後重要となる(すでに大分県で熱中症症例が発生している)。
3. 平成 26 年調査で洪水や土砂災害のハザードマップ内に立地する医療機関が国内では意外に多かった。しかし今回、朝倉市で浸水被害などに巻き込まれた医療機関はなかった模様。この理由は何か?(立地の問題?)。平成26年の広島県での豪雨・土砂災害との比較も必要か。

文責:佐々木宏之(災害医学研究部門)